

(第1回日田市農業振興ビジョン推進委員会資料)

日田市農業振興ビジョンに係る品目振興の令和4年度実績
および第6次日田市総合計画第3期基本計画見直しについて

令和5年7月13日

(1) R4年度 品目別実績

指標名		単位	R3実績	R4目標	R4実績	評価	備考 (目標と実績の増減があった場合の理由など)
梨	生産量	t	2,825	2,520	2,831	○	一部地区において霜害、雹害があったが、前年並みの出荷となった。
ぶどう	生産量	t	192	160	197	○	特に大きな被害もなく、前年並みの出荷となった。
スイカ	生産量	t	1,659	1,720	1,703	△	梅雨時期の降水量も少なく玉肥大に影響があった。
白菜	生産量	t	2,715	3,250	2,451	×	単価安による作付面積の減少。 10月以降の干ばつ、12月の大寒波による収量減。
梅	販売額	千円	90,177	80,000	73,564	△	・地域により結実差が大きく、2年連続の豊作であったが、生り疲れが見られ収量に影響があった。 ・全国的に豊作傾向で単価が下がったため販売額が低下した。又、安価であったため生産農家が自家加工用に使用した。 【今後の取組】 ・部会活動による収量の増加（養蜂事業、新改植事業）、各管理講習会（剪定、防除等）の実施。
	(生産量)	t	186	—	182		
すもも	販売額	千円	86,628	90,000	82,745	△	・地域により結実差が大きく、降水量も少なく収量に影響があった。 【今後の取組】 ・部会活動による収量の増加（新改植事業）、各管理講習会（剪定、防除等）の実施。 ・開花機を用いた人工授粉により結実の充実を図り、生産量の増加に努める。
	(生産量)	t	107	—	96		
白ネギ	販売額	千円	67	65	70	○	一部病害虫が発生したものの、生産者が増えたことで出荷量は増加した。
ピーマン	生産量	t	30	83	28	×	個々の反当収量の差が大きく、全体的には反当収量が低い。 また、個々の作付け面積（生産者数）が伸びていないことも影響している。
にんにく	生産量	t	6	10	4	×	定植後雨が降らなかったことにより、2～4週間程度芽立ちが遅くれ、MS中心の出荷となったことから収量が上がらなかった。
えのき茸	販売額	千円	661,373	790,000	647,483	△	・原木が安定せず1本当りの平均収量が減少し、生産量に影響を受けた。 ・安定した原木の供給に向けた培地の試験。
	(生産量)	t	2,861	—	2,584		
生椎茸 (原木・菌床)	生産量	t	20	24	17	△	原木椎茸については、高齢化に伴い年々生産者減。 菌床椎茸（サンマッシュ）についても、4名中1名が生産休止状態
乾燥椎茸 (原木)	生産量	t	96	100	104.6	○	・昨年から増加しているが、県の集計方法の変更によるもの。 【今後の取組】 ・しいたけ版FSを活用した新規参入者の確保 ・県単事業を活用した機械・施設等整備による省力化と増産 ・補助補助事業の実施による増産意欲の喚起と県ブランド「うまみだけ」生産者の増加
クレソン /ハーブ	販売額	千円	63,116	95,000	77,172	△	・夏期の高湿の影響により生育が悪く、出荷量に大きく影響した。単価は、昨年に比べ全体的に高値で推移した。
	(生産量)	t	28	—	27		
わさび	生産量	t	27	34	19	×	
山椒	生産量	t	4	6	5	△	
米	栽培面積	ha	1,006	995	990	—	・栽培面積については、WCS飼料へと転換したことによる減
	生産量	t	4,869	4,876	4,900	—	
産直野菜	日田 販売額	千円	319,699	318,000	324,518	○	出荷店舗数が増加したことにより販売額が増加。
	大山 販売額	千円	949,850	1,120,000	942,420	△	【今後の取組】 ・土づくりを主体とした農産品の生産を一層充実する。 ・新規出荷者の獲得。
肉用牛	出荷量	頭	1,458	1,360	1,319	△	E Tの出荷頭数減少。
乳用牛	生乳生産量	t	39,946	39,500	38,496	△	・輸入飼料及び資材価格増加が経営に圧迫。飼料コスト削減に伴う乳量の減少。 ・牛群の選抜淘汰による飼養頭数の減少（低能力牛の淘汰） 【今後の取組】 ・自給飼料増産と飼料調達の持続的利用による経営基盤強化

※各指標の評価欄は、目標に対する実績の達成度が100%以上で「○」、80～99%で「△」、79%以下で「×」とした。

(2) 第6次日田市総合計画第3期基本計画見直しについて

総合計画と農業振興ビジョンの位置づけ

本市の最上位計画『第6次日田市総合計画』（H29年度～R9年度）に基づく、農業振興分野の個別計画として位置づけており、各計画の計画期間は下記のとおり。

総合計画は、H29年度～R9年度の11年間で基本構想、基本計画及び実施計画で構成。基本構想は、市の将来像や市政の基本方針を示したもの。基本計画は、基本構想が示す基本方針に沿って実施する施策を体系的にまとめたもので第1期計画を3年間、第2期計画を4年間、第3期計画を4年間で策定。

農業振興ビジョンは、H29年度を初年度とし、R3年度を中間目標年度、R9年度を最終目標年度とする11年間で策定。

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
総合計画	基本構想（11年間）										
	第1期基本計画（3年間）			第2期基本計画（4年間）				第3期基本計画（4年間）			
農業振興ビジョン	計画期間（H29年度～R9年度）										
					★						
					中間見直し	見直し後 計画期間（R4年度～R9年度）					

ビジョン改訂のポイントと総合計画第3期基本計画の見直し

(1) 主な改定内容一覧 ※左側の(ページ数)は「改訂 農業振興ビジョンのページ」、右側の(ページ数・○数字)は「第6次日田市総合計画第3期基本計画」の見直しに反映。

基本目標	基本方針	基本施策	主要施策(改訂農業振興ビジョン原稿ページ)	主要施策のポイント(追加・変更点)・第6次市総合計画第3期基本計画の見直しに反映
日田らしい足腰の強い農業と活気ある農村社会をつくる	『稼ぐ農業』を目指す	Ⅰ 日田の強みをいかす	1 果樹・野菜・花卉・米等の安定生産と生産拡大(P22)	・【共通】…スマート農業技術の導入による機械化・省力化(P6①) ・【果樹】…傾斜地から平坦な樹園地への移行、梨選果場の再整備(P5②, P7③) ・【野菜】…ピーマン広域選果場利用による安定生産と省力化 高収益な園芸品目の生産に向けた水田畑地化の推進、園芸産地づくり計画の作成(P5④)
			3 産直野菜の生産拡大と出荷体制の整備(P24)	・地域内の堆肥を活用した土づくりによる品質の向上(P7⑤)
			4 足腰の強い畜産業の振興(P25)	・自給飼料生産の拡大(P6⑥, P7⑦) ・堆肥の広域処理連携に向けた検討(P6⑧, P7⑨)
			5 内水面資源の維持と活用(P26)	・漁協と連携した安定的な稚魚や卵の確保等による内水面資源維持(P5⑩, P6⑪)
		Ⅱ 創意工夫で販路拡大を目指す	2 百貨店、量販店、外食産業等のニーズに対応した販売企画、商品開発の推進(P28)	・新たな販路開拓に向けた、生産者によるインターネット通販の促進
			3 地域ブランドづくりとPR(各種フェアの開催等)(P29)	・GAPによる食品の安全や環境保全等、持続可能な生産工程管理の取組等を通じたブランド力の強化(P5⑫, P6⑬)
			5 農商工観の連携・6次産業化への展開(P31)	・農協、部会、企業と連携した商品開発及び認知度向上(P6⑭, ⑮)
	『活躍する農業』を目指す	Ⅲ 元気な担い手を育てる	6 農産物の輸出に向けた取組(P32)	・日田梨の輸出拡大を図るための梨保冷库の増設や選果場の再整備(P5②, P7③)
			1 担い手の明確化と農地の集約(P33)	・農地利用や農業経営の在り方について地域での合意形成を図るため人・農地プランの実質化の推進(P7⑯) ・離農の意思がある農業者の経営資源情報の整理(P7⑰)
			2 集落営農の育成・法人化(P34)	・集落営農組織経営の安定化に向け水田畑地化等による高収益な園芸品目導入の推進(P5④)
			3 新規就農者や農業後継者の確保・育成(P35)	・新規就農者の経営安定・定着に向けたサポート体制の充実(P7⑱) ・部会等を中心とした担い手確保に向けた第三者継承円滑化のための経営資源情報のリスト化(P7⑰)
			5 包括的な農業支援体制の強化(P36)	・担い手をサポートする体制の整備に向けた関係機関等との連携強化(P7⑱)
		Ⅳ 使える農地を増やす	1 生産基盤として有効な農地確保や農業用水施設の整備・更新(P37)	・水田畑地化の計画や栽培品目の選定など集落ごとの農地の利活用実態に応じた基盤整備の推進(P7⑱) ・災害に強い生産基盤づくりや災害発生時の早期復旧・復興(P5⑳, P7㉑㉒) ・関係機関が連携して取り組む流域治水の推進(P7㉓)
	『感動する農業』を目指す	V やさしい農業を目指す	2 地域循環を目指した環境にやさしい農業の実現(P41)	・臭気対策等の環境に配慮した畜産業の推進(P5㉔, P7⑨)
		Ⅵ 魅力ある農村を築く	3 グリーンツーリズムの推進(P45)	・農業を学びのツールとして、魅力ある農村地域における学びや暮らしの体験による交流人口の増加と定住促進(P7㉕)

産業振興

3-(1)

(1) 農業・水産業の振興

- ① 地域特性を活かした農畜産業・内水面漁業の展開
- ② 地域ブランドによる販路拡大
- ③ 地域を支える担い手の育成
- ④ 農業生産基盤の確保と優良農地の保全
- ⑤ 環境にやさしい循環型農業の推進
- ⑥ 魅力ある農村づくりの推進

現状と課題

- ・ 主要作物（梨・ぶどう・スイカ・白菜・梅・スモモ等）については、県内有数の産地となっており、市場流通に対応するため生産の拡大と品質の向上が求められています。果樹については、老木化が進んでおり、早期改植や品種更新、平坦地への移行などによる生産性の向上や、出荷体制の充実（②）が課題となっています。
- ・ 狭い耕地を活用し所得の確保につながっている産直野菜については、需要が高まっており、周年栽培が可能なハウス施設等の整備や出荷体制の充実が求められています。
- ・ 畜産業については、輸入飼料の価格影響を受けない飼料自給型の畜産経営が必要となっています。また、担い手の高齢化に伴う労働力不足等により飼養管理の省力化や作業効率の向上が課題となっています。
- ・ 河川環境の変化や魚病、カワウによる食害（⑩）等により内水面資源の漁獲量の変動しやすいことから、安定化に向けた取組を推進する必要があります。また、内水面資源の日田ブランド確立に向けた取組が必要となっています。
- ・ ライフスタイルの変化に伴う消費者ニーズや購買形態の変化に対応した生産・供給体制の構築を図る取組が必要となっています。また、他産地との差別化を図りブランド力を向上させるため、農業者の創意工夫と地域の特性を活かした、水田畑地化による高収益園芸品目への転換など（④）稼ぐ農業への転換が求められています。
- ・ 農業者の高齢化や担い手不足により、生産性の低下や耕作放棄地の増加が深刻化しており、新規就農者や後継者の育成・確保、地域を支える集落営農組織への農地集積等の取組が求められています。
- ・ 農業者人口の減少を踏まえ、担い手への農地集積を促進するためには、作業効率の良い優良農地の確保が必要となっています。また、農業用施設の多くが老朽化し、施設機能の維持保全のための整備や更新、ため池等の（⑳）防災減災対策が必要となっています。
- ・ 脱炭素社会の実現に向けた環境負荷の低減が求められており、（㉔）畜産堆肥を活用した飼料用作物の生産を基軸とした、耕畜連携による化学肥料の低減を

図る環境にやさしい循環型農業の取組が必要となっています。また、再生可能
(⑬) エネルギーを活用した施設園芸の取組も注目されています。

- ・農業や農村が有する多面的機能を維持するため、美しい田園景観づくりや都市との交流等、都市部から農村への移住・定住を推進し農村の活性化につなげる取組が必要となっています。
- ・中山間地域においては、イノシシやシカ、カワウ等の被害が依然として深刻であり、農家の生産意欲の減退や内水面資源の漁獲量減少の要因となっていることから、捕獲対策と予防対策の継続が求められています。(⑪)

基本方針

- ・平坦地から周辺部の準高冷地まで、変化に富んだ地形や寒暖差の大きい気候条件の中で、果樹、野菜、花卉、米等の栽培、畜産業、内水面漁業が展開されており、引き続き日田の強みを十分に活かした農業を推進します。
- ・国内外の新たな市場開拓の可能性を踏まえ、多様な消費者ニーズへの的確な対応を図り、県、農協、生産者と連携し販路の拡大を推進します。また、地域ブランドの確立やPR活動の推進、日田梨の輸出拡大やその他農産物の輸出に向けた取組を関係機関と連携し推進します。
- ・新規就農者や後継者等、やる気のある担い手や集落営農組織の育成や法人化及び企業の農業参入、さらに農福連携に向けた取組を推進します。
- ・優良農地の維持や農作業の効率化を図るため、農業用水施設の維持や更新、水田畑地化に向けた排水対策、農道の拡幅や舗装等、農業基盤整備を推進します。また、農業用施設の防災減災対策を推進します。
- ・環境にやさしい農業を推進するため、減農薬や減化学肥料の推進、畜産堆肥の利活用による循環型農業に取り組みます。
- ・水源の涵養や自然環境の保全等の多面的な機能を維持するため、美しい田園景観づくりや鳥獣害に強い集落の形成、農業体験を通じた都市との交流、教育や観光等との連携を図りながら魅力ある農村づくりを推進します。

主要施策と主な取組

① 地域特性を活かした農畜産業・内水面漁業の展開

- ・果樹、野菜、花卉、米等の安定生産と生産拡大の推進
- ・地域の特性を活かした作物の振興及び産直野菜の生産拡大と出荷体制の整備
- ・スマート農業技術の導入による機械化・省力化技術の普及(④)
- ・畜産堆肥の地域内循環及び広域流通の取組(⑧)
- ・良質な堆肥を活用した自給飼料生産の推進(⑥)
- ・繁殖牛農家における優良雌牛の導入や更新の推進
- ・内水面資源の維持と活用

② 地域ブランドによる販路拡大

- ・農・商・工・観の関連機関と連携した6次産業化の推進
- ・関係機関と連携した販売企画や販路開拓の推進
- ・百貨店等と連携した農産物ギフト商品の企画・開発(⑭)
- ・市場や消費者へ旬の産地情報の発信やキャンペーンの展開(⑮)
- ・直売所を活用した地産地消、地産外消の推進

- ・農産物の輸出に向けた取組や輸出拡大に向けた施設の整備（③）

③ 地域を支える担い手の育成

- ・新規就農者や農業後継者を確保・育成する体制の充実
- ・地域農業の中心となる担い手の明確化と農地集積の推進
- ・集落営農組織の育成や法人化及び企業の農業参入等の推進
- ・県や農協等の関係機関と連携した担い手をサポートする体制の整備（⑱）
- ・農福連携の推進
- ・第三者継承に向けた経営資源情報の整理（⑰）
- ・将来の農地利用の姿を描く「地域計画」の作成及び実行（⑯）

④ 農業生産基盤の確保と優良農地の保全

- ・生産基盤として有効な農地確保や水田畑地化に向けた排水対策
- ・畑地化の計画や栽培品目の選定等、集落ごとの農地の利活用実態に応じた基盤整備の推進（⑲）
- ・農業用水施設の整備・更新や農道の拡幅・舗装等
- ・ため池の計画的な補修・改修及び廃止による防災力の強化（㉑）
- ・ため池ハザードマップの公表及び防災情報の発信（㉒）
- ・優良農地の保全と有効活用
- ・耕作放棄地の解消
- ・農業用施設の防災減災対策
- ・関係機関が連携した流域治水の推進（㉓）

⑤ 環境にやさしい循環型農業の推進

- ・安全・安心な環境保全型農業の推進
- ・良質な堆肥生産及び域内循環、広域流通の推進（⑨）
- ・コントラクター等の組織化の推進（⑦）
- ・農業分野への再生可能エネルギー導入の促進
- ・土壌診断の実施及び施肥指導（⑤）

⑥ 魅力ある農村づくりの推進

- ・美しい田園景観づくりの推進
- ・有害鳥獣による被害の予防と捕獲対策の強化
- ・学びの農業をテーマとしたグリーンツーリズムの企画・開催（㉔）

関連する主な計画

- ・日田市農業振興ビジョン
- ・日田市農業振興地域整備計画
- ・日田市環境基本計画
- ・新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン
- ・日田市観光振興基本計画
- ・日田市障がい者計画
- ・日田市障がい福祉計画
- ・日田市定住自立圏共生ビジョン
- ・日田市過疎地域持続的発展計画

目標指標

指標名	基準値 (年度)	目標値
		令和 9 年度
主要農産物の生産量（年間） （梨、ぶどう、スイカ、白菜）	7,044 t （令和 2 年度）	7,835 t
集落営農組織法人数	9 組織 （平成 30 年度）	12 組織
新規就農者数（年間）	31 人 （平成 30 年度）	31 人